

していかなければいけないと考  
えています。

また、観光協会会員の方の多くは、商工会会員の方でもあります。現在、具体的な連携は行つていませんが、今後、観光協会、商工会ともどのような連携ができるか検討していかなければいけないと考えています。

**タウンプロモーション室と地域振興課の事務分掌等と進め方**



**答**（山内タウンプロモーション室長）

八百津町行政組織規則でタウンプロモーション室の企画推進部の分掌事務は「八百津ブランドの発掘に関すること」「交流・定住促進に関すること」「地域振興課の商工振興係の分掌事務は「特産品の宣伝・紹介及びあつせんに関すること」地域振興係は「移住定住に関すること」と同じような業務となっています。

これらについては、全国でも各市町村が大変力を入れてアイデアを絞っていることではないかと思います。それだけ当町にとりましても重要なことであり、どちらの室・課でも行えるよう重複した業務になつていると理解しています。

当室の八百津ブランドの発掘としては、町内でまだ知られていないものを見つけ出すこと、

資源に高い付加価値を持たせること、外に対してアピールすることを考えていました。新しい八百津ブランドとしては、

地域振興課の武藤地域おこし協力隊が、八百津町製茶組合で製茶したお茶の名称、ロゴとパッケージを作成し、新商品も開発しました。商品は、久田見て製茶されたお茶に似合う名前ということで「八百津茶きよら」としました。お茶の香り立つような清らかさを波で表現しています。標高

**問** 空き家バンクの現状と地域おこし協力隊の今後は

みると、地域振興課の事務分掌等をみると、「八百津ブランドに関すること」と「特産品に関すること」「定住促進に関すること」と「移住定住に関すること」というような双方が似かよつた業務が重なり合つていて、お互  
いの位置づけを確認すると同時に、今後の連携等をどのように進めしていくのか伺う。

また、定住促進に関することについては、当町において定住促進を実現することがすべての事業の第一の目標であると考えています。そのため、定住促進に直接的に響く八百津のすばらしさをプロモーションしたり、

分掌事務にある各事業を行い、最終的に定住促進につながることを考えています。地域振興課とも連携しながら、定住促進につとめたいと考えています。

当室の八百津ブランドの発掘としては、町内でまだ知られていないものを見つけ出すこと、

資源に高い付加価値を持たせること、外に対してアピールすることを考えていました。新しい八百津ブランドとしては、

の高い清らかな空気の中で育つた八百津のお茶がイメージできるようなロゴとなっています。

煎茶、田舎仕立て、釣り鐘茶、  
粉末茶日茶の7種類を製品化す  
ることができました。今後、八  
百津ブランドとしてPRしてい  
きたいと考えています。また、

同じく末近地域おこし協力隊も染め物で八百津ブランドの開発

ができないものかと考えています。

また、定住促進に関するこ  
とについては、当町において定住  
促進を実現することがすべての  
事業の第一の目標であると考え  
ています。そのため、定住促進  
に直接的に響く八百津のすばら  
しさをプロモーションしたり、

分掌事務にある各事業を行い、  
最終的に定住促進につながること  
を考えています。地域振興課  
とも連携しながら、定住促進につ  
とめたいと考えています。

## Q1 錦津保育園の周辺整備について

**長谷川泰幸議員**

**Q1 錦津保育園の周辺整備についての取り組みは**

**問** 錦津保育園建設予定地の周辺は農地が広がっており、その農地を八百津町が中心となつています。移住前の住所地

平成26年度までは実績がありませんでしたが、制度のPRを強化したことにより、平成27年度4世帯、平成28年度9世帯、平成29年度11月現在において9世帯となつておらず、着実に増加しています。これをもつて私は評価したいと考えています。

年齢構成としては、20代が1

世帯、30代8世帯、40代5世帯、50代3世帯、70代以上1世帯とつとめたいと考えています。

60代3世帯、70代以上1世帯となつておらず、移住前の住所地は、愛知県から10世帯、岐阜県から11世帯、沖縄県から1世帯、和知地区が4世帯、久田見地区が7世帯、福地地区が3世帯、潮南地区が3世帯という状況になっています。

続いて、地域おこし協力隊の募集についてですが、今年度は1名新規採用をし、4名の地域

在3名である。あと1名は募集中なのか、募集されるのか、今後どのような考え方なのか伺いたい。

中なのか、募集されるのか、今後どのような考え方なのか伺いたい。

年度から実施しており、町の空き家バンク登録件数は、家屋と土地を合わせて81件あります。

空き家バンク制度は、平成21年と土地を合わせて81件あります。

空き家バンク制度を利用して移住された方は、合計22世帯61名の移住者がありました。

平成26年度までは実績がありませんでしたが、制度のPRを強化したことにより、平成27年

度4世帯、平成28年度9世帯、平成29年度11月現在において9世帯となつておらず、着実に増加しています。これをもつて私は評価したいと考えています。

年齢構成としては、20代が1世帯、30代8世帯、40代5世帯、50代3世帯、70代以上1世帯となつておらず、移住前の住所地は、愛知県から10世帯、岐阜県から11世帯、沖縄県から1世帯、和知地区が4世帯、久田見地区が7世帯、福地地区が3世帯、潮南地区が3世帯という状況になっています。



锦津保育園建設予定地の周辺

おこし協力隊が活動する予定でした。しかし、隊員1名が途中で退任しましたので、現在3名が活動、1名の欠員となっています。残り3ヵ月余りとなつてしましましたので、今年度は1名欠員のままとなります。12月に1名募集をしますが、採用としては平成30年4月からと考  
えています。新年度予算の対応となりますが、議会の議決をもつて決定したいと思っています。